



# む け 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺  
常陸太田市久米町20-1  
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058  
FAX：0294-76-0169

## 親 鸞 聖 人 報 恩 講

親鸞聖人が、お亡くなりになったのは弘長2年11月28日(新暦に置き換えると1263年1月16日に当たります)に、三条富小路にある弟尋有じんゆうの善法坊で往生の素懐を遂げられました。伝えられている話によりますと、臨終は弟の尋有や末娘の覚信尼かくしんにらが看取ったそうです。その後、聖人のご遺骨は鳥部野北辺の大谷と言う地に石塔を建て納められました。

しかし、聖人の墓所は大変質素なものでしたので、末娘の覚信尼さまや聖人の遺徳を慕う関東の門弟達は大変寂しい思いをしておりました。そこで、10年後の文永9年に、大谷の西側吉水の北にある地にあった覚信尼さまの敷地を寄進して、その地に関東の門弟たちの協力を得て、六角の廟堂を建てて、そこに親鸞聖人の影像を安置しご遺骨を移しました。これが大谷廟堂びやうどうの始まりです。

この大谷廟堂が建つ地は、覚信尼さまの寄進した土地だったので、覚信尼さまが廟堂をお守りする留守職るすしきにつきました。それ以降は、覚信尼さまの子孫が留守職に就くことになり、聖人の孫の如信上人が覚信尼さまの後を継ぐこととなりましたが、廟堂の実際の守もりについては覚信尼様・覚恵様に任せて、如信上人自身は奥郡おうと呼ばれた地を中心に布教活動を続けられました。

その後、覚如上人の時に大谷廟堂の寺院化を図ることになり、留守職は、次第に住持職(住職)の意味合いを持つようになり、更に三代伝持の血脈(教えが親鸞聖人から孫の如信上人、そして覚如に伝わった)をとнаえ、自分が正当な3代目であると主張し、本願寺第3代を名乗りました。しかしその主張は、当時の有力な高田門徒はじめ、親鸞聖人直弟子たちの反発を生むこととなりましたが、これは別な機会に述べたいと思います。

こういった寺院化に先立ち、永仁2年(1294年)に、親鸞聖人の曾孫である覚如上人が25歳の時に、親鸞聖人の33回忌を本願寺にてお勤めされたことを由来としている行事が、現在まで続いている報恩講の始まりになります。この報恩講という言葉は、覚如上人のお書きになった「報恩講私記」という書物から来ております。

この「報恩講私記」には、親鸞聖人のご遺徳が称えられており、親鸞聖人のご真影しんねいの前で読み上げられたと伝えられております。それ以来本願寺では、毎年報恩講がお勤めになり、「報恩講私記」が読み上げられるようになったと言われます。

また如信上人も、奥郡から京都までの道のりを毎年通い、報恩講にはお参りを欠かさなかったと伝わっております。

なお、本願寺という寺号の由来は、亀山天皇より親鸞聖人のお骨を納めた、大谷廟堂に下賜された「久遠実成阿弥陀本願寺」が由来とされております。



本願寺の報恩講の様子



(第5回) ※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

### お釈迦様の生涯 伝道

前回・前々回は、お釈迦様に5人のお弟子が出来て、それぞれが悟りを開いたことをお話いたしました。ここに、鹿野苑を中心として、6人からなるサンガ(仏教教団)が出来上がることとなります。この鹿野苑は、ヴァーラーナシーにあったわけですが、このヴァーラーナシーは、当時のインド最大の王国(カーシー国)の首都でもあったので、商業貿易の中心でもあり、財力に富む商人が数多く住んでいました。その中に、ヤサと言う豪商の息子がおりました。

ヤサは、大変贅沢な暮らしをしており、欲しいと思ったものは何でも手に入り、放蕩三昧の生活を送っていました。しかしヤサは、このような生活を送っている間に、地に足が着かないような不安を感じていたと言われ、ある早朝に目を覚ました時に、家を抜け出してヴァーラーナシーの郊外を一人で歩いていたそうです。その時に、たまたまお釈迦様も座前の疲れを取るために、そこをゆっくりと歩いていたと思います。すると、ヤサが「ああ苦しい、ああ虚しい。」と声高につぶやいているところに遭遇しました。それを聞いてお釈迦様は、ヤサが出家前の自分と同じ悩みに苦しんでいると思い、ヤサに声をかけました。

「ここには、辛いことも苦しいこともない。絶対の安らぎの中には虚しさはない。ここに来て座りなさい。私は、君のために教えを説こう。」ヤサは、「辛いことも苦しいこともない」という言葉を聞いて、お釈迦様の教えを聞くことにしました。この時お釈迦様が話された教えは、次の3つだと言われています。



- (1) 与えることの大事さ
- (2) 戒めや道徳を守ることの大切さ
- (3) いつも幸せでいられる悟りの世界に生まれること

この3つは、当寺のインドで広まっていた、良い行為には良い結果が現れるという、因果応報の考えに基づいたものでありました。そしてヤサは、この教えを聞いている内に、日々の生活が大切であり、それが将来を作るといふ因果の道理を信ずるようになったと言われます。

次にお釈迦様は、四諦の話をされ、それもヤサは深く理解し、「生ずるものは、必ず滅するものである」といふ智慧を得ました。

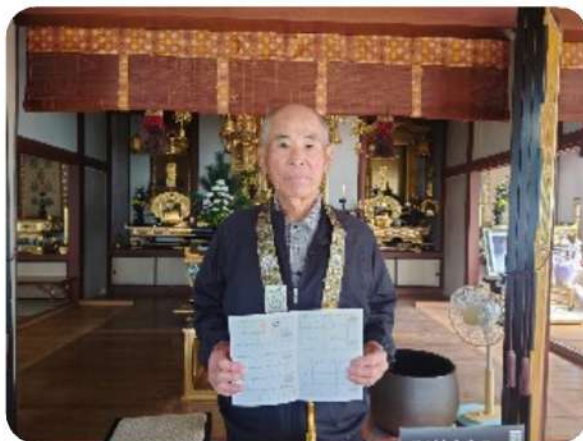
ここでヤサが、お釈迦様の弟子(出家者)になったのを切っ掛けに、父・母・妻もお釈迦様の話を聞いて仏教の信者となりました。そしてこの出来事は、ヴァーラーナシーの町中に知れわたり、仲の良かった4人の友人がお釈迦様の元を訪れ、教えを聞く内に真理への眼が開かれ、出家を許され悟りを開きました。さらに50人の友人たちがヤサの元を訪れ、お釈迦様の教えによって出家をして悟りを開きます。

こうして60人の出家者教団ができあがりしました。

(次号へ続く)

## 参れ～寺カード10ポイント達成報告

今後ともよろしく願いいたします。



40ポイント達成！

橋本 貢様

お寺でライブ!?

一期一会落語会

11月4日に正念寺本堂に於いて、落語会を開催いたしました。昨夏「怪談話」出来て頂いた「柳家かゑる」さんが、この度真打ち「柳家平和」さんとなって再登場です。常陸太田出身の「柳家ひろ馬」さんと共に約2時間、2席ずつ落語をして頂きました。30名以上の人たちとともに、大変楽しい時間を過ごすことができました。

最後は、皆様で集合写真を撮り、平和師匠の手ぬぐいや扇子などの販売もあり、購入した扇子にサインを頂きながらお別れになりました。

来年も行う予定にしておりますので、是非楽しみにして頂ければと思います。



柳家 平和師匠



柳家 ひろ馬様

## 築地本願寺ご誕生850年・立教開宗850年慶讃法要

令和6年4月26日(金)から29日(月)まで、築地本願寺において、親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が行われます。この内、茨城東組が所属するブロックでは、27日(土)に参拝が予定されています。国の重要文化財になっている本堂での法要で、この茨城は浄土真宗が生まれた場所でもあります。是非とも皆様と一緒に参拝したいと思います。



## 感謝録

今年も沢山のお仏供米をご奉納頂  
きました。紙面を借りて謹んでご

報告させていただきます。

### 常陸太田市

井坂 孝一様	井坂 照雄様
井坂 ヨシエ様	井坂 友之様
井坂 豊子様	井坂 浩 様
小菌 篤 様	小菌 達雄様
小菌 浩文様	小菌 光晴様
勝山 芳和様	仲村 義信様
平山 晶邦様	
那 珂 市	
浅川 泉 様	樫村 一洋様
片岡 満 様	小澤 喜一様
住友 政美様	坪井 誠 様

※ 記載されていない方がおりましたら、ご連絡ください。

### 清掃奉仕 10月31日

井坂 久美子様	井坂 豊子様
井坂 ヨシエ様	坂内 愛子様
田口 卯貴様	永山 正文様

### 法句経の言葉

心は直ぐに欲望のままにおもむき  
コントロールが難しいが  
心を自制するのはよいことで  
心は鍛えると幸せになれる

## ホームページのご案内

正念寺ホームページには、今までの寺報  
やちょっとした仏教の話、寺の縁起なども  
あります。浄土真宗本願寺派正念寺で検索  
していただくと表示されます。

スマートフォンなどからは、下記QRコー  
ドを読み込んで下さい。

また、ホームページから  
YouTubeの正念寺チャネル  
へも行けますので、是非  
お楽しみ下さい。



## これからの行事予定

11月28日(火) 9時～	清掃奉仕
12月31日(日) 14時～	年越しの鐘
1月 1日(月) 10時～	元旦会
1月 7日(日) 10時～	総代・世話人 初顔合わせ
1月 8日(月) 10時～	聞法会初顔合わせ
1月30日(火) 9時～	清掃奉仕
2月27日(火) 9時～	清掃奉仕
2月27日(火) 13時半～	仏具磨き
3月 8日(金) 13時半～	永代経法要
3月21日(木) 11時～	久遠廟法要
4月 7日(日) 14時～	花祭りコンサート

## 住職雑感

この所の天気が落ち着かないですね。寒くなったと思ったら、また暑くなっ  
たり。夏と冬を行ったり来たりという感じです。この所言われていることでは  
ありませんが、春と秋が無くなってしまったと言うのが、実感として伝わってきます。庭の紅葉も  
今年は未だに(11月4日時点)緑のままです。

日本の料理でもお菓子でも、四季を写すと言います。特に、上生菓子と呼ばれるものは、見た  
目にも季節観を持って表現されております。また日本料理なども、旬の食材を使ったり、季節ご  
との一寸したあしらいなど、やはり季節感を持った料理と言えます。

お釈迦様が、諸行無常と言ったように、全てのものは移り変わり、いつまでも同じ状態とい  
うものはあり得ないでしょう。しかし、この所の急激な季節感の喪失は、あまりにも考えさせられ  
るものがあります。

春はあけぼの、で始まる枕草子の世界も、四季があるから成り立つ世界です。四季で言えば、  
今は秋。枕草子では、秋は夕暮れがいいといい、雁が飛んでいる世界や虫の音が聞こえてくるの  
も良いと言います。この心の機微に訴える世界観が、いつしか理解できないものになってしまう  
かもしれません。そうならないよう、私たち一人一人が、今自分に何が出来るのかを考えてみる  
ことが必要なのでは無いでしょうか。